

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

● 第5 次行政改革大綱第1 次アクションプランとの関連	
☐ 有	
☒ 無	

1 - 1 事務事業の名称	生活道路整備事業（主要事業）								
1 - 2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	土木課	係	土木係	評価票作成者		
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興			基本施策	道路		コード	3—1—1
		「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			単位施策(中)	生活道路の整備		コード	3—1—1—2
	項	道路・交通			単位施策(小)	道路側溝蓋の設置推進		コード	3—1—1—2—3
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	蓋付き側溝の推進 毎年3km/25路線		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		道路側溝の経年劣化の改善と道路面との段差を解消するため、蓋付き側溝への整備を実施する。			
1 - 5 事務事業の内容	側溝整備は、区長土木工事要望書（毎年8月31日㍻切）で申請された内容を調査したのち、土木工事認定委員会で審査し認定された路線の整備を実施する。								

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取り組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
	平成18年度 東海豪雨後の側溝貯留と流下能力の増進を図り、安心して使える側溝整備を実施した。	財政難による予算確保が厳しい中、工事費のコスト縮減を図り早期の工事完了が求められている。	日常生活で利用する生活道路が安全で安心して使用することができる要望が多
	平成19年度 歩行者及び通行車輛の安全確保を重点に側溝整備を実施した。	〃	〃
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		

2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	蓋付き側溝の年間整備延長 (km)	3.0 (km)	3.0 (km)	車道の『安全で身近な生活道路』を整備する目的で、市内の蓋無し側溝を計画的に布設替えし利用者の満足度が得られるよう年間整備延長を設定した。

2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	平成 1 8 年度	平成 1 9 年度	平成 2 0 年度	平成 2 1 年度	平成 2 2 年度	平成 2 3 年度	平成 2 4 年度	平成 2 5 年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度
活動実績 a（km）	2.4	1.9								
直接事業費 b（千円）	125,061	99,668								
人件費 c（千円）	12,533	9,943								
合計コスト d （b + c） （千円）	137,594	109,611								
単位コスト d / a （千円）	1km当たり 57,331	1km当たり 57,690	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

→活動実績 = H18年度整備延長(2.4km)	直接事業費=H18年度(道路側溝改良+道路改良)工事費	人件費=1.87人×6,702(千円)
活動実績 = H19年度整備延長(1.9km)	直接事業費=H19年度(道路側溝改良+道路改良)工事費	人件費=1.49人×6,673(千円)

2 - 4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	指標対応実 績（単位）	2.4（km）	1.9（km）								
	後期目標値 に対する達 成度（％）	80.0（％）	63.3（％）								

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分 析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	単年度 担当課評価	A	A								

- 4段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	財政難により予算確保が困難であり、施工延長増進に不安である。	緊急性のある路線から順次整備して行く。	年度当初計画した発注プラン通り実施を行うことができた。
	平成19年度	当該年度予算の減額により、施工延長の減が始まった。	コスト縮減を図るため工法検討を行い、緊急路線から整備して行く。	〃
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の 結果		結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		